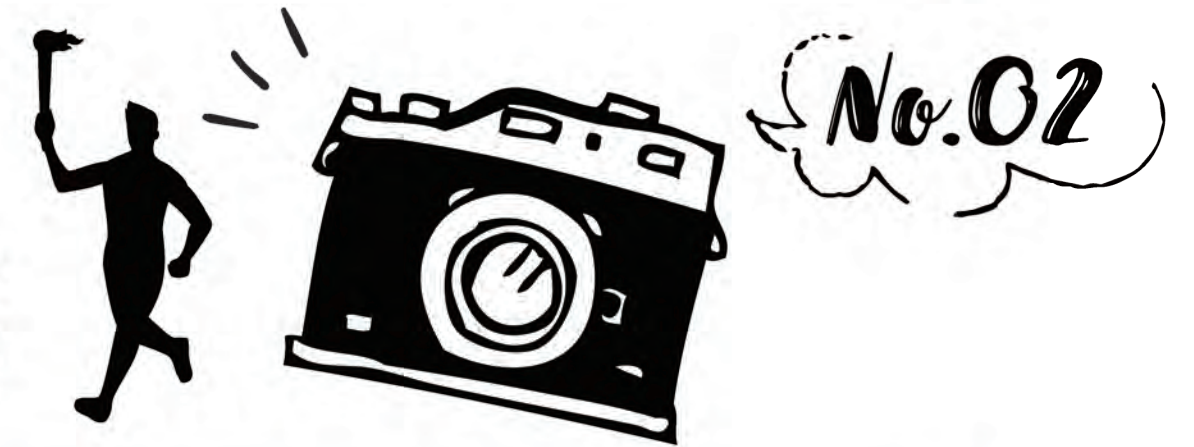




FOR TOKYO 2020 CAMPUS TOPICS



本学の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連ニュースをお伝えいたします



2018.01. \ グローバル社会で生き抜く力を育む/ オリンピック・パラリンピック連携事業 推進室を設置し全学的な取り組みを推進

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定に基づく活動を組織的に推進するため、「オリンピック・パラリンピック連携事業推進室(以下、推進室)」を設置しました。推進室は、組織委員会、地域、企業、他大学等との連携ニーズを把握して企画・立案を行うほか、学生・生徒・教職員による関連活動を支援します。推進室の設置に合わせ、2020年度前期は授業を前倒しし、大会期間には授業・試験を実施しない特別措置を決定。これは、学生たちが、オリンピック・パラリンピックに参画することで、学修から得た知識・技能・態度を実践し、グローバル社会を生き抜くための力を身に付けることを目的としたものです。



また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、教育目標の一つである「国際的視野」を育成する絶好の機会として捉え、以下のような授業を計画しています。

- 日本の観光地の紹介、交通機関の乗り換え、道案内、日本料理の説明などボランティアとして活躍しうる英語力を獲得する「Integrated English」
- メディアの視点から学ぶ「国際理解とキャリア形成」(株式会社スポーツニッポン新聞社と連携)
- ユニバーサルツーリズムや大会ボランティアを学ぶ「オープン講座α」(近畿日本ツーリスト株式会社と連携)
- 教育・文化の両面から、アスリート、文化人、関連企業、他大学など、多様なメンバーと共に創り上げる「オリンピック特別講座(仮称)」



2018.07. \ 東京2020に向けて/ 実践オリジナル英会話テキスト 「JJ English Support Handbook」を開発



表紙や挿絵のイラストは、
本学の美学美術史学科の
学生が担当しました!

実践女子大学では、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、すべての学生がボランティアとして活躍できる英語力を身につけることを目標としています。

このたび、1年次必修科目の「Integrated English」の補助テキストとして、『JJ English Support Handbook』を開発しました。これは、本学の言語文化教育研究センターによって発行され、今年度より採用されたものです。このテキストには、日本の観光地の紹介や交通機関の乗り換え、道案内など、来日観光客と日本人学生の間で想定される話題についてのやりとりの英会話に掲載されています。表紙や挿絵のイラストも本学の美学美術史学科の学生が担当し、サイズも持ち運びしやすいB5版となっています。

オリンピック期間中の来日観光客への案内や、ボランティア活動などで役立てるよう、今後も本テキストを活用して準備を進めていきます。

2年後に向けて、これからもオール実践で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていきます。



「実践」流のおもてなしにぜひ注目ください!



2018.08. \ 東京2020まであと2年/ 「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」に学生約100名が参加



オリパラプロジェクトメンバーは、目隠しをして文字を書く「ブラインド書道」体験などを行い、礼法研究部は来場者に冷茶を提供しました。冷茶を提供した礼法研究部の学生は「今回の参加を通して、本学や他大学のさまざまな団体と交流を持てたことで多くのことを学ぶことができ、貴重な体験となりました」と熱く語りました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まで2年を迎えることを記念したイベント「渋谷区文化プログラム MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」に、本学の学生約100名が参加しました。

ボランティア学生が猛暑の中来場者を誘導し、参加の各団体はステージなどで日頃の成果を発表しました。礼法研究部は着物や作法についての演舞を披露、吹奏楽部は他大学と合同のコンサートを実施し、Addict dance clubはSOCIAL WORKEERZとのダンスで会場を盛り上げました。裏千家茶道部は「茶道」、香道研究会が「香道」の体験会で多くの来場者を楽しませました。

